



学院時報

No.86

平成28年3月11日発行

聖ドミニコ学院

角五郎幼稚園・小学校

中学校・高等学校

〒980-0874

仙台市青葉区角五郎2-2-14

URL: <http://www.dominic.ac.jp>

E-mail: high@dominic.ac.jp

T E L 022(222)6337

F A X 022(221)6203

北仙台幼稚園

〒981-0914

青葉区堤通雨宮町11-11

T E L 022(234)3615

船 出

学校法人聖ドミニコ学院理事長
小学校校長 鈴木かな子



ご卒業、ご卒業おめでとうございます。

皆さんは新しい出発の時です。初代教会から船は逆風、また嵐の海を乗り越えてゆく教会にたとえられています。これは同時に荒海に漕ぎ出す私たちの人生の道すがらでもあるのでしょうか。私たちはそれぞれの船に乗って出発します。でも、私たちは何を目指し出発するのでしょうか。

安心しなさい。わたしたち。恐れることはない。(マルコ6章50節)

ある日、ガリラヤ湖で弟子たちの乗った舟は逆風のため、一歩も前に進まないようにすることも出来

ない状況に置かれました。彼らは焦り恐怖に震え上がったと思えます。その嵐の中でイエスは弟子達に近づき、「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」と言うと、嵐は静まり、船は目指す地に着いたのです。

今は宇宙にも行ける時代となり、科学技術の進歩で生活は便利で快適になりました。その反面、先進国による環境汚染、利己主義からくる種々の倫理的混乱を招いている今日です。この不安を抱えた現実を目の前にして、人々は、「何が正しいのか?」「どこに価値を置くのか?」と問う判断基準が危ぶまれています。まさにガリラヤの湖上で嵐にあつた弟子たちのように、現状の変化に動揺し、恐れを抱き、前に進めずに漕ぎ悩む社会のように思えます。

私たちはこのような現代社会で正しい判断、正しい価値観を主張し、生きなければなりません。そのためには私たち自身の内にも迷い、混乱が生じることは避けられないでしょう。でも、そこにどんなに危険があり、どんなに困難があつたとしても、イエスは私たちに近づいてきて「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」と語りかけ、私たちと共にいてくださるのである。

私たちが住む世がどんなに変動し、揺れ動いても、私たちは聖ドミニコ学院の建学の精神であり、十三世紀に生きた聖ドミニコがモットーとした「真理はあなたがたを自由にする」(ヨハネ8章32節)と言う聖書の言葉を一人一人の立場から深め、あなたたちの柱として生きてください。そして皆さんの新しい出発は、勇気と希望のうちに人々の平和のために貢献できるものでありますように。私は皆さんの門出を祝い、前途をお祈り申し上げます。



聖書のことは

イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたは皆わたしにつきまわす。」「わたしは羊飼いを打つ。すると、羊は散ってしまう」と書いてあるからだ。しかし、わたしは復活した後、あなたがたより先にガリラヤへ行く。」(マルコ福音書14章27、28節)

受難の前、イエスは親しい弟子たちとの超越の食事の席で、ユダの裏切りを予告された。食事の後、皆で賛美の歌を歌い、オリブ山に出かけたとき、「あなたは、今夜、鶏が二度鳴く前に三度わたしを知らないと言おう」とのペトロの離反を予告するその前に告げられたのが冒頭の二節である。

イエスにはペトロも他の弟子たちも、わたしたちが罪に陥るだろうことが深い愛のまなざしから見える。しかし、弱さや失敗すら神との出会いの場となる。ガリラヤはイエスの最初の出会いの地であるが、ご自分の死を超えて変わらない無償の愛を示してください。そこでもある。わたしたちの新たな出発の場である。

Sr 鈴木 洋子



昨年十二月十六日、ヴェリタス館ドミニコ聖堂において「ひと足早いクリスマス」が開催されました。毎年、学院周辺の町内会の皆さんをお招きするのが恒例となっており、今年も百人以上のお客様をお迎えしました。小学生の合唱に続いて、中学高校生の合唱とハンドベル演奏、教員によるパイオルガンの演奏が披露されました。プログラムの最後には幼稚園児手作りのクリスマスカードとお菓子がプレゼントされ大変好評でした。





中学校高等学校

自立した女性

中学校高等学校 校長 高橋 延一



中学生、高校生、高橋おめどうございませう。

いつもは聖書の御言葉を引いてお祝いのメッセージを送らせていただいておりますが、今回は思い切つて少し柔らかい、恋話っぽい内容を書いてみます(笑)。

若い社会人たちのグループディスカッションに参加していた時のことです。独身のイケメン男性と既婚の美人社長が恋愛観について議論を始めました。

彼曰く「貴女には上等な男性が似合う」。それを聞いた彼女は即、反論しました。

「上等な男とかよく分からない。地位や名誉やお金があること？」

そんなものは自分で手に入れるから男に求めない。私は私らしく居させてくれる男がいい。この一連の言葉が、考える間もなくスラスラと出てきたことに、彼女自身が自分で驚いていました。「えっ!? そうなんだ! 私って、そうなんだ!!」と。

地位や名誉やお金は自分で手に入る、男性にそれを求めない生き方をする。今時の「自立した女性」らしい考え方ですね。或いは男女共同参画社会の進展により、男性がパートナーの女性に地位や名誉やお金を保証することが難しい時代になりつつあるのかも知れません。

そして彼女は「私が私らしく居られる男がいい」に続けて、「私が私らしく居られる環境がいい」、「私が私らしく居られる仕事がいい」、「私が私らしく居られる人間関係がいい」とも語っていました。

女性は存在価値があるので、自分の存在価値を高めていくほどに輝きます。男性は社会的動物なので、社会への貢献や活躍の度合いで輝きます。そして、男性には「好きな女性を守りたい」という欲求があるので、存在価値の高い女性をパートナーにできれば自ずと社会貢献度も高まり、どんどん成長していきます。

女性である聖ドミニコ学院中学校高等学校の皆さんの存在価値は『真理を求め自由に生きる』ことさらに高まっていくでしょう。皆さんがどのような男性をパートナーに選ぶかは皆さんの自由ですが、自分らしく自立した人生を歩んで欲しいと願っています。
。真理の標語胸におおしくゆかまし。

中学校高等学校教諭 菊森 拓也



今年、聖ドミニコがローマ教皇ホノリウス三世からドミニコ会の創立を認められた二一六年から数えて八〇〇年となる記念すべき年です。この記念すべき年を聖ドミニコが生まれたスペインで迎えようと、聖ドミニコカトリック北仙台教会のドミニカン・ファミリーを中心に、本校からは佐藤正久教諭と私が参加、十二月二十六日から二月二日までの八日間のドミニコ巡礼が企画されました。企画者の一人はかつて高等学校校長・教頭として活躍されたメール ベルナル・マリーです。数多くの渡欧経験を生かし、無駄なく組まれた行程は、八日間イタリア・フランス・スペインを周り、聖ドミニコの足跡を辿るというもの。

「メールが行けば門が開く」メール ベルナル・マリーを先頭に進む私たち巡礼者のために今回もヨーロッパ三か国の修道院の門が開かれ、普段は一般公開していない聖ドミニコ関連の施設へ立ち入ることができました。喜びと感動の何と多い旅行だったこと。聖ドミニコは今も生きて私たちを見守ってくれている、そう強く感じた巡礼でした。ドミニコ会創立八〇〇年祭は来年の一月まで続きます。是非この機会にドミニコ巡礼に出かけませんか。聖ドミニコは、今も私たちを待っております。

仙台市内にある聖ドミニコカトリック北仙台教会は、私たちの学院と同じドミニコ会の教会です。一度足を運んでみてください。ロザリオの祈りをテーマにした美しいステンドグラスを見ることが出来ます。



ポローニャの聖ドミニコ教会
聖ドミニコの墓所の上にある見事な天井画



シエナの聖ドミニコ教会でのミサ
祭壇の後に学院の保護者
聖カタリナの遺骨(頭部)が保存されている



ヴァチカンでお告げの祈りを
唱える教皇フランシスコ
私たちも一緒に祈りを捧げました

ドミニコ会創立 800 年記念 巡礼の旅



ドミニコ中学校での3年間

中学生徒代表 早川 捺月

(仙台市立鶴谷小学校出身)



私の中学校三年間にはたくさん思い出が詰まっています。

まず、クラスメイトとの学校生活の中で感じたことがたくさんあります。特にここらのこっていることは、クラスの団結力です。日々の生活ではまとまりがなく自由な私たちが、学校行事などで全員がまとまり団結力を発揮しました。行事のたびにクラスの団結力のすごさを感じることが

三年間ドミニコ中学校に娘を通わせて

中学生保護者 赤間 裕子



ののんびりとした環境にある小さな小学校から仙台にある聖ドミニコ学院中学校に入学するのは娘も親も一大決心でした。三年前の春、ちよびり大きな新しい制服を着て入学式に臨んだことがつい最近のことのように思い浮かびます。

新幹線とバスを乗り継いで片道1時間半の慣れない通学、無事に「ただいま」を聞くまでは不安と心配の日々が続きま

ドミ中生卒業の時を迎えて

中三担任 木村 匡子



ご卒業おめでとうございます。光陰矢の如し：月

日の流れがこんなにも早く感じられた三年間は、きつと自身の濃さを物語っているのでしょう。あどけない笑顔のあなた達に出会ったあの日から三年の歳月は、一人ひとりどれだけ成長させていったでしょうか。日々の生活からたくさんの学びがあったことでしょうか。楽しいことばかりではなく、

県新人大会団体三位

剣道部主将 一年 菅原 尚央



学校剣道部は、十一月に行われた県新人大会

で団体第三位という結果を残すことができました。青葉区の新人大会が終わった日から県大会当日まで、私たちはトイレのスリッパをそろえる、挨拶をする、進んで手伝いをするなどの「良いことの積み重ね」をいつも以上に行いました。進んで良いことをしたら、「お金で

中学修学旅行

三年 大山 璃音



三泊四日の修学旅行は、たくさんの場所に行了きました。ハ

プニングもたくさんありました。一日目、伊勢神宮へ行く予定が急ぎよ大阪へ。大阪の街はとても賑やかでテレビで見たことのある景色が広がっていました。クラスのみんなでグリコの看板の前で撮った写真は思い出の一枚となりました。二日目は奈良へ。たくさんのお寺や神社を巡り、たくさんの

鹿と触れあいました。その日は京都のお寺に泊まりました。外は寒く、部屋には二つしから集まって寝ました。小学生の頃から一人で寝ていた私にとってこんなにも大人数で寝たのは新鮮で、修学旅行一番の思い出になりました。

三日目は神戸での自主研修。夜は船に乗り、綺麗な夜景を見ながら食事をしました。最終日は名古屋城を見て、仙台に帰ってきました。行きも帰りも飛行機の機材不備で飛行機が飛ばないハプニングもありましたが、今となっては全部素敵な思い出です。みんなと無事帰ってこれてよかったです。

中学3年生 修学旅行

行程表

12月8日(火)	12月9日(水)	12月10日(木)	12月11日(金)
仙台駅集合 仙台空港 IBX 3144 便 中部国際空港 伊勢市 観光案内所へ(徒歩) 豊受大神宮(外宮) 豊大神宮(内宮) 伊勢市 近鉄奈良 ホテルニユウ ナイトハイク	東大寺前で写真撮影 善徳山にて解散 グループ自主研修 無 食 近鉄奈良駅 京都駅 嵯峨嵐山 鹿王院 法話(御朱印帳を預ける) 夕 食 寝	鹿神・住職の話 藤王院 嵯峨嵐山 京都駅 元町 神戸プラザH グループ自主研修 各自 昼食 ハニバーランド集合 ゴーンエルクールズ ディナークルーズ 三ツツエ 就	JR 新神戸 新幹線のぞみ2号 名古屋 名古屋城見学 中部国際空港 各自 昼食 IBX 3147 便 仙台空港 仙台到着





三年間を振り返って

三年前生徒会長 阿部 楓香

(仙台市立三条中学校出身)



ドミニコ 学院で過ごした三年間でたくさん思い出が

できました。私は、生徒会執行部、ボランティア部、学校行事実行委員の一員として様々な活動に参加し、自分出来ることは何かに、やりたいことは何かを真剣に考えるようになりました。特にボランティア部の活動では、校外でたくさんの人と関

単立ちの時を迎えて

高三主任 前田 朱実



三年生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます

います。今後の進路は様々だと思いますが、高校卒業という人生における大きな節目を迎え、感慨もひとしおでしょう。生徒の皆さんは勉学や部活動など、それぞれの目標を決めて努力し、友人と日々切磋琢磨し合ひ、友情を育んだことでしょうか。若さゆえの悩みも多かったと思いますが、乗り

広島・関西修学旅行

二年 佐藤 智晴

(仙台市立広瀬中学校出身)



十二月七日から四泊五日の日程で広島・関西方面へ修学旅行に行ってきました。

私が最も心に残ったことは、広島での被爆体験講話です。「あなたの方力で戦争をしない記録を伸ばしてほしい。あの時代があったから今の時代があると、時々で良いから思い出してほしい。」という言葉が印象的でした。戦争がないか

聖ドミニコ学院高校に娘を通わせて

三年保護者 山口 一美



「私はドミニコにいけます。」そう言った娘の目に迷いは

なかった。一度は引退した剣道だったが、彼女は部活中心の学業と二足のわらじの生活を選んだ。時には星をみながら登校し月を見ながら帰路につく。親のひいき目もあるが力的にも精神的にも良くやっさと褒めてあげたい。学友や部員にも恵まれ顧問や担任の先生をはじめ多くの方々から支えて頂いた。今この

ベスト8

バレーボール部主将二年 菅原 桃佳



菅原 桃佳 昨年の六月に三年生引退してから、私たち

は新チームへと切り替わり「ベスト8」を目標として頑張ってきました。高校総体ではベスト8になれなかったため、春高大会では一次予選からのスタートでした。まだまだ力不足の私たちに楽な試合はなく大変でしたが、全員が一戦一戦必死に戦

越えて卒業を迎えました。保護者の皆様にとっても、ご息女の体調、学習、人間関係、進路など、多くのことに心奪われ日々心配し、成長と共にある喜びも大きい分、心が休まることは少なかったのではと拝察いたします。

私は三年担任が今回で四回目ですが、今年ほど生徒の成長を身近に感じた年はありませんでした。また、生徒達の優しき、思いやりの気持ちに支えられ、助けられ、卒業の日を迎えたことは何よりの喜びです。生徒の皆さん、保護者の皆様との出会いに何よりも感謝したいと思います。

春高予選、そして新人大会では一度落としてしまったシード権を十二月の試合で得て、目標である「県ベスト8」になることができました。新チームがスタートして数カ月は、チームが上手くまとまらず負ける試合が多く、嫌になることもありましたが、この辛い時期を乗り越えられたからこそ得られた結果だと思えます。私たちが強くなれたのは、いつも一生懸命ご指導くださった先生や先輩方、保護者の方々など多くの支えがあったからだと思います。

これからの感謝の気持ちを忘れずに、次の目標「県ベスト4」に向け頑張っていきます。

高校2年生 修学旅行

行程表

日付	行程	見学予定
12月7日(月)	平和記念公園	被爆体験講話→平和式典→原爆ドーム
8日(火)	蔵島神社	蔵島神社へ(徒歩で出発、写真撮影)→
	高敷美観地区 大原美術館 姫路城	美術館→美観地区散策 天守閣まで全員で移動、その後自由見学
9日(水)	U.S.J	園内自由行動
10日(木)	自主研修	8:30~17:30
11日(金)	金剛寺	ガイド誘導
	三十三間堂 清水寺	自由見学 自由見学



この修学旅行では、平和や歴史を学び、友人たちと時間を共有することの大切さや私たちのためにたくさんの方が支えてくれていたことが感じました。ここでは語りきれませんが、学んだ多くのことをこれからの高校生活に活かしていきたいと思えます。



小学校

学校生活もまとめの三学期となり、各学年が進級への期待を胸に日々を過ごしています。この一年、子供たちはたくさん行事と共にクラスの絆を強め、個々の力を伸ばしてきました。子供たちの成長の軌跡をご紹介します。

修学旅行

六年間の学びの集大成として、三泊四日の日程で、広島・大阪へ修学旅行に行きました。戦後七十年という節目の年に原爆ドームや平和記念館を訪れ、「戦争と平和」に対して一人一人が真剣に向き合い、学んできました。

「平和を心に誓った修学旅行」

六年 小向 英徳

実際に平和学習で目にした資料や建物は、僕が今まで考えていた原爆の威力よりも、はるかに大きいものでした。世界遺産・負の遺産にもなっている原爆ドームは、あれだけの強い原爆にも耐えたと思うと、未だに残っていることが不思議に感じました。戦争で亡くなった人々が後世に、戦争をさせないようにと残したのではないかと考えました。と同時に、戦争は本当にあつてはいけないものだということが痛感しました。原爆ドームだけでなく、広島平和記念資料館の展示物もどれも悲惨な戦争を語るものばかりでした。二度と戦争をしてはいけない事をこの先も忘れずに語り継がなければいけないのだと心に焼き付けました。

戦後七十年を迎え、被爆経験者が年々減り続ける中で、竹内さんの貴重な体験談を聞くことが出来、想像以上に心が痛みました。私達一人一人が、平和を願って、平和のために小さなことから始めていく事が大事だと思います。僕は、まずルールを守り、命を大切に、思いやりの心を持つていこうと心に誓いました。

六年間の小学校生活の中で、このような貴重な体験が出来る修学旅行に連れて行って下さった先生方、お父さん、お母さん、本当にありがとうございます。平和資料館で、ちょっと怖い思いをしていましたが、一緒に行ったクラス仲間がいてくれてとてもありがたかったです。一生の思い出になります。



「竹内さんが教えて下さったこと」

六年 安部 千晴

私は初めて、実際に原爆を体験した竹内さんからお話を伺いました。私が印象に残ったことは、主に二つあります。

一つ目は、竹内さんが広島市内に家族を探しに行った時の光景です。例えば、線路に倒れている人がたくさんいて、電車が動かなくなったことや、庭の防空壕が、中のもので真っ黒になっていたこと、熱線がふたの中まで届いたことに驚きました。光景のみならず、亡くなった人々を焼いて川に流した

という兵士にも驚きました。原爆は人の正しく判断する力を奪うほどのものだということがよくわかりました。

二つ目は、竹内さんが最後におっしゃった言葉です。私は今、とても平和で幸せな生活をしています。しかし、世界には戦争や貧しさなどで私のように何の自由もなく暮らすことができない人々がたくさんいます。そのような人々のために私ができることは、平和を願うことなどほんの少しだと思います。竹内さんのお話の中にこんな言葉がありました。それは「平和と叫ぶだけでは平和にならない。公共のマナーを守ったり、気配りをしたり、周りに優しくしたりすることが大切」という言葉です。聞いた時、ドキッとしました。今まで、私は何もわかっていなかったことに気がきました。直接的な支援でなくても、身近なことを実行することも平和につながるのです。周りを幸せにすることも平和のために大切なことなのです。私はこれからまず身近な所から、平和にしていきたいと思いました。

被爆者体験談を聞いたことは、私にとって様々なことを学んだ貴重な一時間となりました。

学芸会

「きんちようしたよ」

一ねん ひらつか さえ

十一月十四日(土)せいでうではじめての学芸会を行いました。

さいしよは、「はじめのことば」からでした。ヒヨコのかっこうでけんきに出ていきました。じぶんのじゅんば

んがきたとき、おもしろいせりふをいきました。おわって、すこしほっとしました。

つぎは、げきでのじぶんの出ばんです。(ましがえないで言えるかなあ。)と、とってもしんばいでした。おきゃくさんがたくさんいて、びつくりしたからです。でも、うたもおどろもせりふをいうのも上手にできたとおもいます。おわったとき、いっぱいおかあさんに、「がんばったね。」

とほめられました。がんばってよかったなとおもいました。二年生になったら、どんなげきをすめるのかなあ、いまからのしみです。

「きんちようした学芸かい」

一ねん 小さか ゆうき

はじめての学芸会が十一月十四日(土)に、せいでうでありました。

はじまるまえに、ドキドキしていたから、手に人というかん字をかいてのみこむおまじないをしていました。まわりでもしていました。みんなもきんちようしていたとおもいます。

じぶんの出番がきました。きんちようしてしかたがなかったけど、れんしゅうしたことをおもい出しながらしました。大きなこえでゆつくりということ、うごきは大きさにすることをがんばりました。そうしたら、おまじないよりもさいてきて、ドキドキがおさまりました。

おわったときに、七とくんに「やっとおわったね。」

とほっとして、いきました。七とくんもほくも、笑顔でした。みんなでがんばれたので、よかったです。

「たのしかった学芸かい」

一ねん さとう ひなた

十一月十四日、せいでうで、わたしたちはじめての学芸かいをしました。

ステージの上のピアノのそばでまっとうするとき、きんちようして、あわててしまいました。ドキドキして、ちゅうにういてしまいそうでした。

出ばんで出ていったときに、えんちよう先生のえがおが見えました。きんちようが、パパッとなくなっていました。せりふをいうのも、うごきもかんべきにできました。

おわったとき、おきゃくさんからはく手をもらって、うれしくなりました。

いえにかえったらママに、「上手だったね。」とほめられて、またまたうれしくなりました。

バンド・イン・バンド

五年 鈴木 優心

「お金が募金箱に入ると、お札はともかく小銭は丸い愛と変わる。」

とユニセフ講座の先生がおっしゃっていました。ほくは、「お金が募金箱に入ると、お金が命になつていく。」

という考え方でしたが、先生の話を聞いて、別のとらえ方を知りました。

してあげる幸せ、特に募金は、身近なところで人のために何かすることが出来るチャンスだととらえています。



この学校にはそのチャンスが沢山あります。土曜日にあるハンド・イン・ハンドや、緑の羽根募金、ドミニコ祭りで得た収益金などは沢山の命を救うはずです。

ぼくは、学校の顔である児童会の副会長として、事前指導であるユニセフ講座で聞いたことを今回のハンド・イン・ハンドに生かしていきたいです。去年はくは四年生で、五・六年生にお世話になっていました。しかし、今年はサブリーダーとして、決められたグループの中でしっかりとまとめていきたいです。

「幸せ者」

五年 川本 萌子

私は健康で学校にも行けて、美味しい給食を食べることができています。それが当たり前じゃないの？という人もいます。でも、世界に目を向けるとそう思い通りにはいきません。

私たちが反対に学校に行けなくて、満足に食べ物が食べられず、栄養が足りなくなると病気になるってしまふ子供もいます。その他にも、家のために働かなくては行けなかったり、きれいな水が使えなかったりもします。私は、そのような話を聞いたとき、とてもショックを受けました。そして、このユニセフ・ハンド・イン・ハンドを通して、私たちにできることはなんだろうと考えるようになりました。

もう一つびっくりしたことがあります。それは、日本もユニセフに助けを求めていることがあるということです。私の勝手な思い込みですが、ユニセフが活動しているのは主にアフリカ地域かと思っていました。そのような

印象があったので、とてもびっくりしました。日本もユニセフに助けを求めているので、次は恩返しのためにも頑張りたいと思います。家族がいて、友達がいて、おいしい食べ物が食べられて私は幸せ者です。

ユニセフ・ハンド・イン・ハンド、せいいつばい頑張ります！



二人の意気込みから伝わる通り、十二月の寒空の中、今年度も「ハンド・イン・ハンド」の募金活動に取り組みました。市内十二ヶ所に分かれて、一生懸命募金を呼びかけた結果、六十七万七千五百七十八円の募金が集まりました。全額ユニセフを通じて、恵まれない地域の子供たちのために使われます。ご協力ありがとうございました。

クリスマス礼拝会

カトリック学校として、行事のなかで最も大切にしているのが、クリスマス礼拝会です。今回もイエス様の誕生劇を合唱団が美しい歌声で表現しました。

「祈りをささげる」

イエス様のおたん生

四年 山本 馨野

クリスマス礼拝会は、イエス様のおたん生をさん美する大切な行事です。その行事の聖劇に出られることはとてもうれしいことです。

私は、今回その聖げきに羊飼いの役として出ることが出来ました。羊飼いは貧しいけれど、心がきれいで、正しい人たちだと思います。イエス様のおたん生を最初にさん美することができた人たちです。その羊飼いの役に選ばれた時は、うれしい気持ちと、私がかんたんとできるかという不安な気持ちが入り混じっていました。羊飼いの役は四人で全員同級生だったので安心感もありました。歌の練習は、意外とむずかしく、二重唱をすところの音はまらなかつたり、相手の音につられてしまつたりしてなかなか上手く歌えませんでした。でも、そこで相手と音を重ねることのむずかしさや音がきれいに重なった時の気持ちいい喜びを感じる事が出来ました。だから、その後の練習をよりがんばろうと思うことが出来ました。

イエス様は、たくさんの人たちに正しい教えを説いてきました。私は、この礼拝会で羊飼いとて歌えたことが、とてもうれしかったです。

私は歌うことがとても好きです。歌で自分の思いが伝えられることはとても素晴らしいからです。私はこれからもずっと歌い続けていきたいです。

「礼拝会に参加して」

三年 林 杏奈

私は三年生で合唱団へ入り、初めて礼拝会に参加しました。毎日の練習では、曲がたくさんあるので、順番に気をつけながら練習していました。

一、二年生の時、合唱団の歌う聖歌隊席にあがっていたので、三年生になつて聖歌隊席に上がれてとてもうれしかったです。

私は、たいこうせつの間、時間を守ることを日ひようにできました。世界には働かなくてはならない子どもたちがいるのに、わたしたちはあたりまえのことをあたりまえにできます。だから、大切な時間をもつとゆうように使いたいと思いました。

いよいよ、本番の時間になりました。すると、ろうそくを持って神父様やそれぞれの役の人たちが入場してきました。私たちが「久しく待ちにし」を歌い終わると、ステージの上では、聖げきが始まっていました。イエス様のためにひつじかひや、はかせなどが礼拝にきて、盛大なおたん生のお祝いになりました。イエス様は、世界からピラミッドがたの社会をなくし、平和にするために生まれてきました。上級生はく力のある聖げきで表現していたので、「すごいなあ。さすが！」と思いつつ歌っていました。

さいごまで気持ち良く、楽しく、笑顔で歌えて、今年の礼拝会はとてもいい思い出になりました。

「できると思うにせよ、できないと思うにせよ、その通りになる」

六年 河野 慶大

ぼくは、クリスマス礼拝会でヨゼフ様の役をやりました。最初に先生から指名されたときは、とても驚きました。その時は、不安だったけれども、先生から

「慶大君ならできるよ。」という言葉に励まされ、役を引き受けました。それから、朝や昼、放課後の練習に一生懸命取り組み、本番では

今までの中で一番納得できた歌でした。役の話を聞いた時、もうだめだ、ぼくにはできないとも思っていたとしたら、「できると思うにせよ、できないと思うにせよ、その通りになる」の言葉の通り、納得いかない歌唱になつていたかもしれません。

国語の名言調べの学習で出会ったこの言葉は、合唱以外のことにも関係があると思います。これから小学校を卒業して中学、高校と進んでいく中で、辛いことにもたくさん出会うはずですが、しかし、そんな時にも諦めず、最後までやり遂げることができれば、きっと目標や夢を実現することができるでしょう。ぼくは「どんなに辛くても、諦めずに最後までやり遂げる」の言葉をモットーにして、これからの長い人生を生き



て生きていきたいです。



角五郎幼稚園

『クリスマスの心』

園長 森本 幸子



カトリック幼稚園において、クリスマスはキリスト教の大切な「心」を伝える

ことが出来る重要な行事です。園のクリスマス礼拝会の四週間前から園の待降節が始まります。

子どもたちは、自分たちがどれ程恵まれているかを知り、困っている人・悲しんでいる人・苦しんでいる人・日

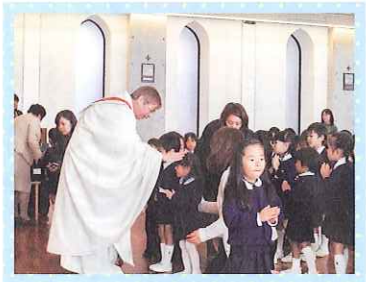
今年、ある卒園生のお母様から、娘

がサンタさんに自分へのプレゼントは
いらぬから困っている人・苦しんで
いる人に自分の分を届けて欲しい、と
いう内容の手紙を書いたのだ、とい
う事で、手紙とプレゼント代のお金を託
されました。いろいろ思案した上、カ
リタスジャパンに送金し、資料をサン
タさんから、として届けました。その
お子さんは、自分の思いがサンタさん
によって実現したことを、大変喜んで
そう、サンタさんにお礼の手紙を書
いたので、と再度その手紙をお母様が
送って下さいました。それに添えて
あった、お母様の手紙には、「純粋な
娘の思いに感動し、娘から大切なこ
を教えられた。」と書いてありました。

困難な中にある人々への温かい思
い、まだまだサンタさんを信じている
純粋な心、その思いを実現させようと
託して下さいましたお母様、クリスマスの
心温まる嬉しい出来事でした。

七五三聖式

北仙台幼稚園と合同で行われた七五三聖式。ライモンド・ラ・トゥール神父様司式のもと温かな雰囲気、子ども達の成長の喜びをお祝いしました。神父様から祝福をいただき、おメダイをつけた子ども達には、神様からの沢山のお恵みが降り注がれたことでしょう。聖堂に響き渡る子ども達の祈り、歌声が神様のもとへと届き、これからの成長を見守っていただけるとを願いながら、この幸せを子ども達と共に感謝していききたいと思います。



外遊び

月に一度行われる「外遊びの日」。子どもたちは、体操着で登園し、朝の身支度を終わるとすぐに「行ってきまーす！」と笑顔で園庭へ向かいます。お約束事を確認し、早速遊びの時間がスタート！砂場での泥んこ遊びや鬼ごっこ、サッカー等お友達や先生と一緒に自由に遊ぶ様子が見られます。季節ごとにも異なった遊びが見られ、春は花びら集め、夏は水遊び、秋は落ち葉プール、冬は雪合戦等、その季節ならではの遊びをしながら体を思い切り動かして遊ぶ様子が見られます。又、遊びを通して、新たな交友関係も広がり、子ども達にとっては社会性を身に付ける上でもとても大切でそしてとても大好きな日となっています。



収穫祭

十月のすがすがしい秋晴れのもとで収穫祭を行うことができました。この日を迎えるにあたり、年長児が育て収穫したサツマイモを使って年中児がスイートポテトを作りました。また、子ども達は年間を通して作物を育て収穫し、調理をして頂く経験をしてきました。収穫祭では、作物への感謝のお祈りをしたり、元気なかけ声に合わせて、べったん、べったんと楽しくおもちゃつきを行いました。昼食時には、おもちとスイートポテトをおいしく頂き、食べ物の大切さを感じながら、喜びの笑顔があふれる一日になりました。



作品展

一年間、子ども達が取り組んできたお仕事や製作をヴェリタス館いっばいに飾りました。そして毎年恒例の全園児で作った共同製作！今年は大きな鳥羽や体は子ども達の手型作り、皆で鳥に乗って大空へ！毎年一人一人の作品を通して成長を感じる作品展。自慢気に自分の作品を紹介する子ども達の笑顔が印象的でした。四月に進級、進学を迎える子ども達。共同製作の鳥のように未来へ大きく羽ばたいていきますように。



聖劇

十二月十二日にクリスマス礼拝会・第二部聖劇が行われました。子ども達は待降節中、イエス様の誕生の事を考えながら心静かに祈り、共に優しい気持ちで過ごしてきました。聖劇の準備では、一人ひとりが神様から与えられた役割をしっかりと受け止め、使命感をもって取り組んでいました。初めはひとりでは不安な子ども達も、友達の前姿や温かい励ましの言葉に支えられ自信へと繋がっていききました。又、沢山の聖歌も大好きになり、園内中に元気な歌声が響き渡る程、クリスマスの喜びを感じていこうでした。当日子ども達は自信に満ち溢れており、ご降誕の喜びを多くの方に伝えられた達成感を味わい、子ども達の表情も輝いていました。



幼稚園で遊びましょ

角五郎幼稚園の未就園児クラスでは、満三歳児が月に二回、満二歳児が月に一回、活動を行ってきました。当園の特色である、モンテッソーリ教育のお仕事の体験では、自分で選んだ教具に取り組み、自分でできた！ときの喜びに触れる、子どもたちの表情が、見守る私たちにとっても、嬉しく心が温まる瞬間でした。また、親子の触れ合い遊びや、運動、製作遊び。様々な活動を通して、子ども達の笑顔が見られました。沢山の子どもたち、保護者の皆様にお集まり頂き、笑顔いっぱい、幼稚園で遊びましょう。でした！





北仙台幼稚園

時間をかけて

園長 齋藤 潤子



十二月のクリスマス礼拝会で二年ぶりに北仙台教会に入った瞬間、外国の教会

のような荘厳な雰囲気を感じました。それは、日本のカトリック教会では建て替えの際に近代化し、教会らしいイメージの建物が少なくなつたからだと思います。

私たちの周りでは近代化が進み、様々な環境がめまぐるしく変化し続けています。例えばデジタル的(先進的)アナログ的(時代遅れ)と称され、価値の基準はそれに要する時間の長短等で判断される事が多くなつてしまつたように思えます。

そのような中でも、時間を要しても時代遅れと言われてもいいものの中に教育や躰があると私は考えています。なぜなら、幼児が成長していく過程では、物事に丁寧に向かい合い取り組むを繰り返して、経験を積み重ねて行く時間が必要だからです。ともしれば、早くしないと出遅れると急ぐ気持ちになります。そこは我慢のしどころ。大人がすぐに援助してしまうと経験すべき時期に必要な経験ができなくなってしまう恐れがあるからです。

園児は、誕生してからまだ一〇〇日〜二〇〇日程度しか生きていないのですから、自分で思うようにできず苦戦するのは当然です。苦戦している姿を見た場合には原因を探り改善の方

向へと導き、早くできた時にはきちんと褒め、さらにできているか見直しをしてやる。歩みの遅いものですが、身近で見ている大人たちに大切にしたい時間なのです。私たちが周りの大人と同じ思いをさせて育ってきたのですから。

発表会。お友だちと協力し、作り上げる活動を通して大きく成長することができましたね。

子どもたちは「鬼なんて怖くないもん」と鬼を退治する気満々でしたが、いざ豆まきが始めると鬼の迫力に泣き出し涙を拭いて守ってくれたのが年長さん！とっても微笑ましい姿でした。

子どもにとってはもちろんですが、親にとっても園生活はかけがえのない時間なのだ実感しています。子どもが初めて家庭を離れて生活する集団であり、社会である幼稚園。教育理念や縦割編成に魅力を感じて選びましたが、マイペースな長男が馴染めるのか不安でした。ところが優しい先生方に個性を認めてもらい、安心して園生活を送り、友達から刺激を受け、お互いに励まし合い助け合い様々なことを成し遂げられました。不安は安心に変わりました。

保護者 眞柳みゆき

発表会



十一月二十七日に発表会が行なわれました。

年少児は「まるばんころころ」、年中児は「きんのがちょう」、年長児はうたの発表と聖劇を行いました。

年少児は、初めての発表会に緊張の様子。小さい体をいっぱい使って元気に表現することができました。

年中児は楽しい歌とダンスがいっぱいの劇。お友だちと協力して頑張る姿が印象的でした。

最後は年長児。長いセリフも堂々と責任を持って役それぞれが輝いた



クリスマス礼拝会

十二月十六日に北仙台教会でクリスマス礼拝会が行なわれました。

クリスマスに向けてイエス様が元氣にお生まれになるように、子どもたちは優しい心や強い心はどんなことか、クラスで話し合いをしながら良いこと・頑張ること・我慢すること・勇気を持つこと等、子どもたちそれぞれ考えて行動し、心の花束に励んでいました。

また子どもたちは、世界中には食べることができない人がいることを知り、苦手な物を食べたり、お菓子をかうのを我慢して献金していただきました。

待降節で取り組んできたことをおうちの方と一緒に神様にお捧げすることができ、子どもたちも嬉しそうでした。



節分・豆まき

「おには〜そと〜ふくは〜うち〜」ホールから子どもたちの元気な声と豆をまく音が聞こえてきました。前日、

作品展



二月五日、作品展が開催されました。今年のテーマは「四季」園庭の桜の木を一年を通して観察し、季節毎に変化していく様子を製作しました。

桜の木は子どもたちの小さな手形を押し描きました。小さな手形も友達と協力する事によって立派な桜の木を描けることの楽しさを知ることができた子どもたち。その周りには一年で作ってきた製作物も沢山飾りました。

当日は自分の作った製作物や一生懸命描いた自画像をたくさんの方に見て頂き、褒めてもらった事で自信を持つ事ができたようでした。



もうじき卒園を迎える長女はかなりの引つ込み思案でしたが、最近ではお友達を誘ったり、以前の自分同様に不安顔の子に声をかけたりして、笑顔で楽しく遊んでいます。

年少児の次女は、半年余り毎日泣いていましたが、今では休みの日にも幼稚園に行きたいというほどです。

三人三様ですが、園生活に馴染んでとても楽しく過ごしています。また、縦割りクラスで異年齢の子と接し、思いやりの気持ちや忍耐力が芽生えましました。身近な年長児への憧れは、成長を促してくれました。お仕事では、知識・技術・集中力を身につけました。他にも沢山のことを体験し、学ぶことができるのは、いつでも温かく優しく支えてくれる先生方がいるからです。本当にありがとうございます。あと二年間、次女とともにかけがえのない時間を過ごさせてください。よろしくお願ひします。